㈱鉄鋼通信

※無断転載・コピー禁止

編集代表　橘　彰

「鉄のニュース」

2010 年 4 月 15 日号

今日のニュース

- **メタルワン特殊鋼、白鷺特殊鋼と業務提携締結**
- **新日鉄広畑製鉄所薄板工場、月間生産量で日本記録を達成**
- **中国の鉄鋼生産拡大基調続く　3 月粗鋼 5497 万トン　22.5%増**

メタルワン特殊鋼、白鷺特殊鋼と業務提携締結

両社の経営基盤を相互利用で競争力強化を図る

メタルワン特殊鋼（完倉洋一社長）と白鷺特殊鋼は 15 日、両社の事業領域の重複部分が少なく、相互補完する分野が大きいとして業務提携することで合意した。この合意に基づき、両社の持つ物流、在庫、加工などの経営基盤を相互利用することでコスト競争力を高め、ユーザーへのサービス機能の充実を図ることで縮小する市場での機能強化を図ってゆく。特殊鋼国内市場はリーマンショックによる大幅な落ち込みから回復してきているが、自動車、産業機械など主要ユーザーの海外生産の進展などから、ピーク時の状態への回復は構造的に期待できない環境となっている。

こうした環境の変化をうけて、特殊鋼の流通・加工業界でも、新たな体制の構築が迫られている。メタルワン特殊鋼と白鷺特殊鋼は、関西以西の特殊鋼市場を対象に、それぞれのビジネスモデルを維持しながら両社の持つ物流、在庫、加工設備など経営資源を相互に利用、活用することでコストの低減、サービス機能の強化を図ってゆくこととした。メタルワン特殊鋼は、構造用特殊棒鋼、厚板、薄板の大手ユーザー向けひも付きや流通との取引で全国に販売ネットワークを持っている。また、貿易でもアジア市場を主体に展開している。一方、白鷺特殊鋼は構造用棒鋼のひも付き取引事業中心だが、業界でも最大の在庫量、

在庫バリエーションを誇り、関西から九州にまで拠点を展開している。更に、傘下に鍛造事業、機械加工事業を持ち、特殊鋼から鋼材の高付加価値加工品も事業領域としている。提携に至ったのは、両社の事業領域に重複部分が少なく、逆に、相互補完する分野が大きく、相互にメリットが得られると判断したもの。
****

新日鉄・広畑製鉄所薄板工場、完全連続冷延鋼板ライン（F.I.P.L.）

月間生産量で日本記録（10 万 1600 トン）を達成

新日本製鉄・広畑製鉄所の完全連続冷延鋼板製造ライン（Ｆ.Ｉ.Ｐ.Ｌ.）が 3 月の生産量で連続式焼鈍・調質ラインとしては月間生産量の日本記録を達成した。この設備のこれまでの月間生産記録は平成 18 年 12 月に記録した 10 万 300 トンだったが、3 月の生産は 10 万 1600 トンを達成したもの。

日本記録を達成したＦ.Ｉ.Ｐ.Ｌ.は自動車、家電向け厚手冷延メッキ製品を生産する基幹工程設備。この設備の公称能力は月間 9 万 3 千トン。一般的に冷延連続焼鈍ラインは冷延の圧延能力に対して焼鈍能力のマッチングが難しく、焼鈍能力がライン全体のボトルネックとなっている。広畑製鉄所では設備能力をフルに発揮すべく、予防保全の徹底、通板速度の向上などの対策を着実に推進した成果が表われた。ちなみに、同ラインは世界的な不況時の 09 年 1～3 月の月間生産量は 3 万 8 千トンレベルにまで落ち込んでいたが国内外の需要回復で超フル操業状態に達した。生産品種は自動車向けが 40%、電機向けが 30%、その他 30%だが、ライン生産品種の 50%が輸出向けとなっている。09 年 1～3 月当時は自動車 60%、電機 20%、その他 20%で輸出向けは全体の 30%程度に止まっていた。

月間生産量日本新記録を達成した広畑製鐵所薄板工場

ＪＦＥスチール、「鋼構造設計便覧」改定版を発行

ＪＦＥスチールは、建材新商品情報を充実させた改定版「鋼構造設計便覧」を発行した。この「鋼構造設計便覧」は 1964 年に初版が発行されて以来、建築物の設計、製作、施工のための参考資料として設計事務所やゼネコン、ファブリケーターに「青本」の通称で長年愛用されてきた。今回、設計事務所などの強い要請により 6 年ぶりに本格改定を実施、発行した。新商品の内容を追加、07 年の建築基準法改正内容、更にグループ会社の商品についても掲載商品を充実させている。

****

向山工場が集塵機損傷で 10 日から製鋼休止

圧延は通常操業で三興製鋼に支援要請へ

ウインＦの三興製鋼も減産下で支援量に制約も

電炉丸棒メーカーの向山工場（向山勝社長）の久喜工場（埼玉県）で 4 月 10 日（土曜日）、集塵機の損傷事故が発生、製鋼工場が休止していることがこのほど明らかになった。人身災害はなく現在、鋭意操業再開に向けて業者と詰めているが、再開時期については「まだ不明」（向山工場）としている。幸い圧延にはなんら問題はなく、在庫ビレットを使って操業しているが、製鋼工場の操業休止が 2 週間以上に及ぶとビレット不足になるため、共同で販売会社を経営している三興製鋼（鈴木史郎社長）に支援を要請したもようだ。

向山工場と三興製鋼は製品の共同販売会社ウインファーストを設立するに当たって、双方のビレットサイズ、製品等の相互チェックを行っており、ビレットは長さ以外は全く問題なく使えることが確認されている。このため三興製鋼はいつでも支援できるが、実際には減産を前提にシフトを組んでいることと、鉄スクラップや副資材等の在庫も余剰在庫を持たず絞っていることなどから、向山工場の製鋼休止が長引く場合はビレット支援は量的に制約が出てくる可能性がある。

このため両社は製品の融通を含めての対応も検討している。現に両社共通の鉄筋加工屋もあり、柔軟な対応は可能と思われる。

需要家側も値上げ後の契約分もあるが、先物も混じっており大きな混乱はないものと思われ、特に向山工場の製鋼休止で市場に反応は出ていない。

中国の鉄鋼生産拡大基調続く

3 月粗鋼 5497 万トン　22.5%増

中国の鉄鋼生産は拡大基調を続けている。15 日発表された中国の生産統計によると、2010 年 3 月の銑鉄生産は前年同月比 19.6%増の 5216 万トン、粗鋼生産は 22.5%増の 5497 万トン、鋼材生産は 28.1%増の 6824 万トンとなった。1～3 月の累計生産は銑鉄が 1 億 5011 万トンで前年同期比 21.7%増、粗鋼生産は 1 億 5801 万トンで 24.5%増、鋼材生産は 1 億 8575 万トンで 28.6%の増加となっている。中国の 8%を超える経済成長、自動車などの販売・生産の拡大、建設需要の増加などが鋼材消費に結びつき鉄鋼生産拡大を支えている。年率で 6 億 3 千万トン規模となっている中国の鉄鋼生産だが、政府の金融引き締め、元切り上げなどによっては中国国内の鉄鋼需給が大きく変化しかねず、過剰生産圧力は一段と増す環境となっている。

****

ベトナム、日本の新幹線方式の採用を閣議決定

期待される新幹線車両用、レールなど関連鋼材消費への波及効果

ベトナム政府は 15 日、ベトナムが導入を計画している首都ハノイと南部のホーチミンを結ぶ全長 1600 キロの高速鉄道計画で日本の新幹線方式の導入を閣議決定した。2012 年に着工、20 年の一部運行開始を目指す。総額 4～6 兆円と見込まれている資金負担に対して日本政府がどこまで支援するのかが、最終決定の鍵を握っている。日本の新幹線方式が導入されることで、新幹線車輌用やレールなどを含めて鋼材需要をどの程度創出するか注目されている。

****

韓国の船舶受注、世界トップに帰り咲き　1～3 月受注、154 万CGT

韓国・聯合ニュースが伝えてきたところによると、これまでトップの座を中国に明け渡していた韓国の造船受注だが、2010 年第 1 四半期の新造船受注では中国を抜いてトップの座に帰り咲いたという。韓国の 10 年第 1 四半期の建造受注は前年同期比 195%増の 154 万ＣＧＴ（標準貨物船換算トン数）と受注が急回復した。金額も 2.6 倍の 24 億ドルに達した。一方、中国など他地域の受注は

中国が 79 万 6 千ＣＧＴ、欧州が 14 万 2 千ＣＧＴ、日本が 10 万 5 千ＣＧＴ、その他が 41 万 1 千ＣＧＴ。3 月末の韓国造船業の手持ち工事量は 5159 万ＣＧＴで前年比では 20%減となっているが 3 年分の起工量を確保しているという。アジアでの造船向け厚板の供給過剰が指摘され、価格への影響が懸念されてきたが、韓国造船業の受注回復が厚板需給緩和懸念の解消となるかどうか注目されている。

****

新日鉄ソリューションズ　マイクロソフト承認の DWH パッケージを販売開始

新日鉄ソリューションズは 15 日、容量 1～3 テラバイトのデータウェアハウス(DWH)に最適化した DWH パッケージ「NSSOL 版 SQL Server® Fast Track Data Warehouse」の販売を開始すると発表した。このパッケージはマイクロソフトの SQL Server とデルのサーバー・ストレージを組み合わせた構成で、国内の非メーカー系システム・インテグレーターとしては初となるマイクロソフトの性能検証試験を通過し、同社の承認を得たもの。価格は 24 時間 365 日対応のハードウェア現地交換サポート（3 年間提供）を含み、800 万円から。

****

ＪＦＥシステムズ　SaaS 型 SoftDialer のサービスを開始

ＪＦＥシステムズは 15 日、コンタクトセンターのトータルアウトバンドソリューション「SoftDialer」の SaaS 型サービス「J-SoftDialer@SaaS」を 4 月中にサービス開始すると発表した。これまでテレマーケティング活動は機器設置の初期費用がネックとなり、導入を躊躇するケースが見られたが、「J-SoftDialer@SaaS」では専用設備はすべてＪＦＥシステムズのデータセンターに用意されているため、ユーザーが用意するものはパソコン、電話機、ヘッドセットと電話回線のみとなり、機器設置費用を大幅に抑えることができる。このサービスの初期導入費は 50 万円から、利用料は月額 3 万円から。

****

神戸製鋼、コベルコイーグル株を売却

神戸製鋼所は保有するコベルコイーグル・マリンエンジニアリングの全株式をイーグル工業に売却する。この株式売却で約 22 億円の売却益を計上する予定。

余聞

次世代自動車を握るのは誰だ

経済産業省は、先頃「次世代自動車戦略研究会」で検討してきた結果を「次世代自動車戦略２０１０」としてまとめ、発表した。環境対応車として世界をリードしてきた日本だけに、この地位を奪われるなという目的が明確に示されている。さすがとおもっていたら、何と中国の主要自動車メーカー１０社も新エネルギー車で戦略的に提携することで合意したようだ。いまや、世界最大の自動車生産国となった中国にとって、次世代自動車の市場を外資系に渡すわけにはゆかないということなのだろう。次世代自動車と呼ばれる車は言うまでもなく、ハイブリッド車、プラグイン・ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車などをさす。

ハイブリッド車は日本の独壇場とも言える技術だが、電気自動車、燃料電池車となると誰が市場を握るのか、開発をめぐって大競争が展開されている。勿論、この場面でも日本車は一歩も二歩もリードしているといわれるが、その決め手となっているのが日本が開発したリチウム電池だ。最大の弱点はその電池の材料であるリチウムなどの資源の大半を中国に握られていることか。当然のこととして、中国はこうした資源に輸出規制をかけてきている。まさに、嫌がらせだとしか思えないが、簡単にいってしまえば、形を変えた国家間の戦争が勃発しているのだ。資源確保に弱みを持つ日本がリチウムを使用しないポスト・リチウムイオン電池の開発や電池二次利用のための環境整備を電池戦略に掲げているのもうなずける。

それにしても、何時も思うのは中国とか、韓国などがいとも簡単に電気自動車などを市場に、しかも破格の価格で投入してくることだ。指摘されている“自動車のデジカメ化現象”が起きはじめているのだ。新幹線ビジネスでも、同じような事が起きている。電池さえ手に入れば、誰もが電気自動車を製造、市場に投入できるほど簡単なものなのか。この間、中国や韓国の自動車メーカー、電気メーカーが次世代自動車開発で何事かを開発したとは、トント耳にしない。当方が知らないだけなのかも知れないが。パテントは一体どうなっているんだろうと思ったりする。

ただ、家電や半導体で起きた“敗北につぐ敗北”の歴史を自動車では見たくない。ここは、敗北の教訓をあらためて学ぶ必要があるのかも。それが、今回の「次世代自動車戦略」にいかされているのかどうか。残念ながら、そのなかに、鉄鋼など素材系に関する記述が一切見当たらない。これも気になる。

紙魚（しみ）のつぶやき

オランダの浮世絵

俳句仲間の S さん（商社 OB)が今月末から恒例の欧州旅行に旅立つ。75 歳超の後期高齢者だが、商社時代にドイツ駐在を延べ 11 年間務めたこともあって、年に最低 1 回は一カ月余をかけて夫人と駆け巡る。多くは車を運転しての旅行だ。今年はオランダ、スウェーデン方面という。オランダには美術館通りがあるらしく、博物館や美術館が周辺にかたまっているという。そこで「是非」とライデン国立民族博物館に寄ることを勧めた。1 週間前に月尾嘉男東大名誉教授が話していた、江戸時代の出島オランダ商館出入りの絵師・川原慶賀の絵がそこに大量にあるからだ。

川原慶賀は 1786 年（天明 6 年）生まれで 75 歳まで生きた、文化・文政時代に長崎で活躍した浮世絵師である。ところが日本にはあまり絵が残っていない。それというのも出島のオランダ商館出入りの絵師で、もっぱらオランダ商館長プロンホフや商館医シーボルトに頼まれて描いていたからだ。絵は西洋画法を取り入れ、植物の写生に優れ、600 種の植物、260 種の魚の絵が残っているという。伊藤若冲が鳥の羽 1 枚ずつを緻密に描いたように、趣は異なるが魚の鱗が 1 枚 1 枚丁寧に描かれていると言う。

浮世絵はある種、漫画のようにデフォルメして描かれているが、慶賀の絵は写真のように描いたようだ。シーボルトが 11 代将軍家斉の謁見に江戸へ出向く際、慶賀を同行させ、長崎からの道中の風物を数多く描かせている。街道の様子や大阪、京、江戸の町の様子、神社仏閣、農夫や働く人々、公家、武士の装束、風俗などあらゆるものを描かせている。これらのほとんどがオランダに渡っているのだ。

浮世絵は明治時代に陶磁器を輸出する際にくるんだり詰め物に使われ、欧米人の目に留まって大いに関心を集め、ゴッホをはじめ多くの画家に影響を与えた。以来、二束三文で浮世絵は買い漁られて、良いものは多くが海外にあるという今日の状況を招いた。その中で川原慶賀はあまり知られていないが、北斎や歌麿などと違った趣の絵で、風俗から動植物、街道の様子など歴史検証上でも価値あるものだと言う。

慶賀自身はシーボルト事件（禁制の地図などを持ち出そうとした）に連座して捕らえられたりし、その後も長崎港の風景を描いた際、警備船の細川家、鍋島家の家紋を描き込んだため長崎所払いになったりした。写実に徹したのだろう。一部、ドイツの博物館にも慶賀の絵はあるらしい。是非、観てきて欲しいと頼んだが「時間があったらね」との返事だった。ヨーロッパナイズされている S 氏は好みが異なるようだ。